



県病医療ニュース

病院機能評価3rdG:Ver2.0認定病院

〒870-8511 大分市豊鏡二丁目8番1号 TEL097-546-7111(代表) 内線 7712:県病ニュース係



※当ニュースへのご意見・ご感想は県病ウェブサイトをご利用ください。

大分県立病院ウェブサイトはこちら

泌尿器科

腎臓がんに対する手術支援ロボットを用いた腎温存手術に関して

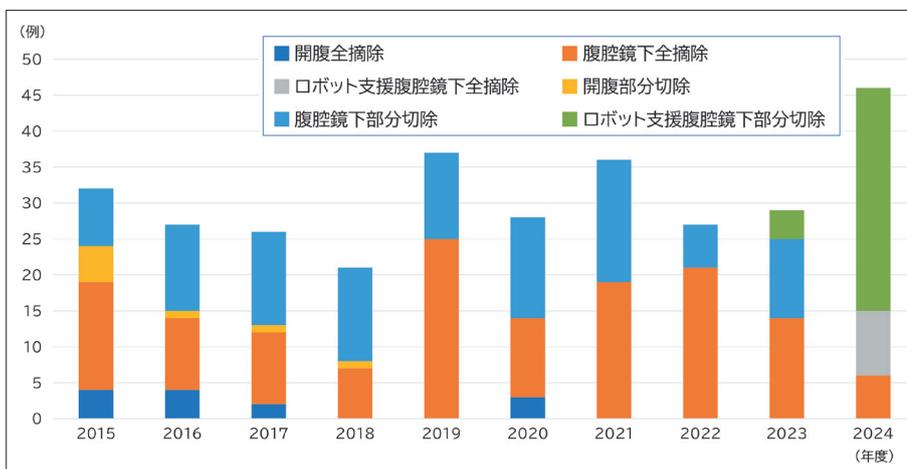
腎臓がんは日本で1年に約2万人が診断されるがんで、ほかのがん同様、根治には早期発見が重要です。検診で偶然発見される場合が多く、発見時ほとんどの方が無症状で診断にはCTなどの画像検査を追加します。腎臓がんの確率が高いと判断された方は根治目的で治療をおこないますが、手術が最も一般的な治療です。診療ガイドライン上でも大きさ4cm以下の腫瘍に関しては腫瘍とその周りの一部のみ切除し、腎臓を温存することで腎機能を保護しながらがんをコントロールすることが推奨されています。この手術は当初は開腹手術でしたがその後腹腔鏡手術、近年では手術支援ロボット(図1)を用いた腹腔鏡下での手術に移行してきています。当科では2023年末から手術支援ロボットを用いた腹腔鏡下手術をおこなっています(図2)。



(図1) 手術支援ロボット

手術支援ロボットを用いた腹腔鏡下手術は拡大視野を用いた鮮明な3D画像のもとで、直感的かつ人の手を超えた可動域と手振れ補正を利用することができ、がんのコントロールを改善し、合併症の発生確率を減らすという利点が報告されています。このことから、腎臓がんに対する手術支援ロボットを用いた腎温存手術は年々増加しています。ただし腫瘍の位置や大きさにより、4cm以下の大きさの腫瘍すべてが腎温存手術になるとはいえないところもあります。

腎臓がんは腎温存手術ができる程度で発見されて適切に治療をおこなえば5年生存率は90%以上で、予後は非常に良好ながんです。もし腎臓がんの疑いがあると言われたときは怖がらず、遠慮せずに泌尿器科を受診してください。



(図2) 大分県立病院における腎がん手術数の推移

(泌尿器科 部長 友田 稔久)

腎臓内科

当院の慢性腎臓病に対する取り組みについて

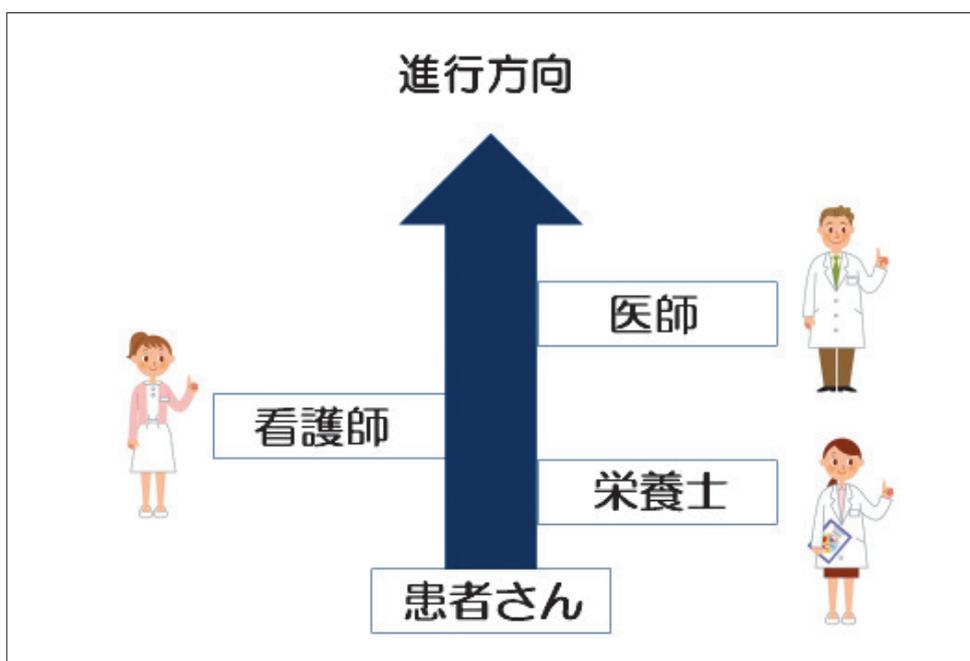
慢性腎臓病とは、主に①検尿異常(特に尿タンパク)、②糸球体ろ過量(GFR)60mL/分/1.73m²未滿のどちらか、または両方が3か月以上持続する状態と定義されています。慢性腎臓病は2005年の推計では1,330万人(国民の8人に1人)と言われていましたが、2024年の推計では2,000万人(国民の5人に1人)と報告され、その増加が大きな問題となっています。

慢性腎臓病の原因として糖尿病や高血圧症、高尿酸血症、脂質異常症などの生活習慣病が原因となることが多くなっています。これまでも当院では内分泌・代謝内科の外来で糖尿病が原因の慢性腎臓病の患者さんを対象に、糖尿病性腎症重症化予防指導を行ってきました。

今回、新たに糖尿病以外が原因の慢性腎臓病の患者さんを対象に慢性腎臓病透析予防指導外来を開始しました。希望される方には同じ受診日に栄養士、看護師、腎臓内科医師から慢性腎臓病の重症化予防のために色々な角度から指導させていただきます。腎機能が低下してしまいますと透析療法が必要となる可能性があります。この外来の対象はすでにある程度、慢性腎臓病が進んだ方のみが対象となりますが、興味を持たれた方は当科外来まで是非お問合せください。

(腎臓内科 部長 福長 直也)

慢性腎臓病透析予防指導の実際



看護師ほか医療スタッフの
臨時職員を募集しています。
詳しくはこちら